

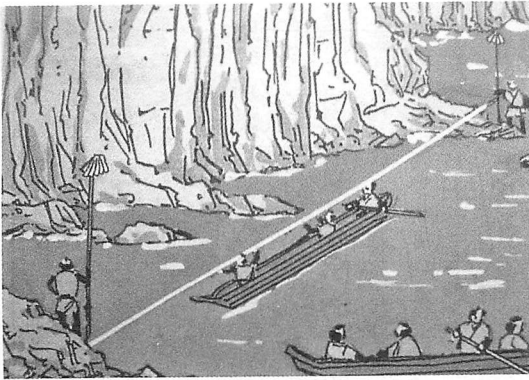
伊能忠敬測量日記と地図(三)

文化七年(一八一〇)三月二日~四月二日

佐伯領内海岸部測量

高盛西郷

(佐伯市大入島石間)



海上からの測量

・梵天(ぼんてん)を位置確定した場所に打ち込み、船で間縄を使って長さを測る。

間縄けんなわ…一間毎に印をつけた測量用検地用の縄

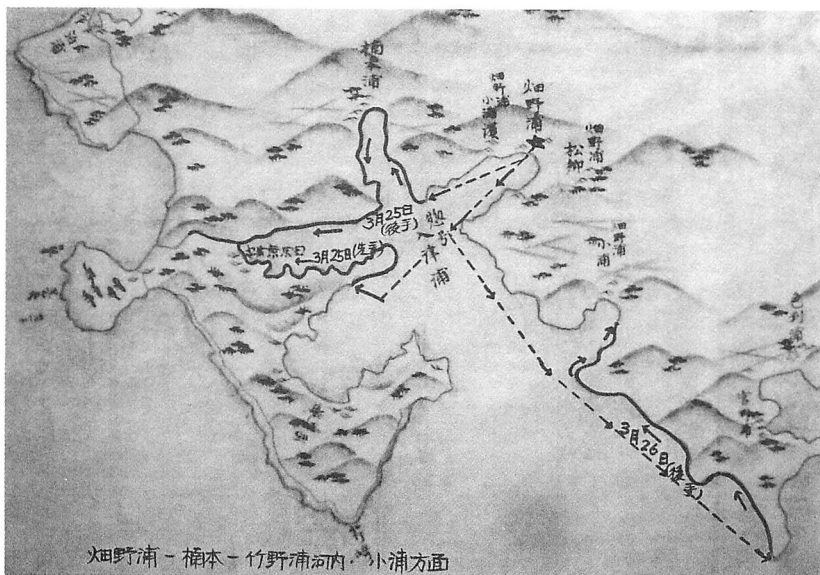
梵天…現在のポールにあたる物。測量地点を示す目印。長さ三間(5.4m)まっすぐな竹で、先に白い紙切をつける。



測量杭打ちと梵天位置指定

佐伯史談第二一〇号、第二一四号及び今回第二一五号の冊誌になりましたが、本号をもって伊能忠敬測量日記と地図の研究を終わります。地図作製時、地名が地図と日記と相違、また日記を活字版に発刊するときの相違など見受けられましたが、わかる範囲で日記の原本に支障ないよう補足しました。偉大な足跡を残された伊能忠敬先生の二百年前の佐伯領内海岸部の測量の様子を再現することができお役に立てば幸いに思います。

最後の頁に、伊能忠敬先生実筆の旧三月上旬の「日記の写し」を一部入手しましたのでお読みください。



畑野浦—楠本—竹野浦河内・小浦方面

同廿五日 朝晴天 西北風 同所逗留測六ツ(午前五

時半)後 両手共出立

後手 我ら・青木・永井・築田・平助

畑ノ浦、楠本浦界字下り松鼻より初め、楠本浦字小向人家一軒、楠本浦、竹野浦河内字長波石、竹野浦河内人家前迄測る。先手へ合測 一里二十〇丁五十一間五尺、(約六、二〇三m)

先手 坂部・下河邊・上田・箱田・長蔵

西野浦之内、西村分また中と云う。字居立浦より初め逆測、竹野浦河内人家下(元)印迄測る。一里〇五丁三十八間(約四、五四一m)また、(元)印より横切山越峠まで測る。即ち竹野浦河内字元猿へ出る。山越二十一丁〇六間半(約一、二一〇m)横切は廿七日に測る。両手共、午前に帰宿。此夜 晴天にて大風 測量(天体)

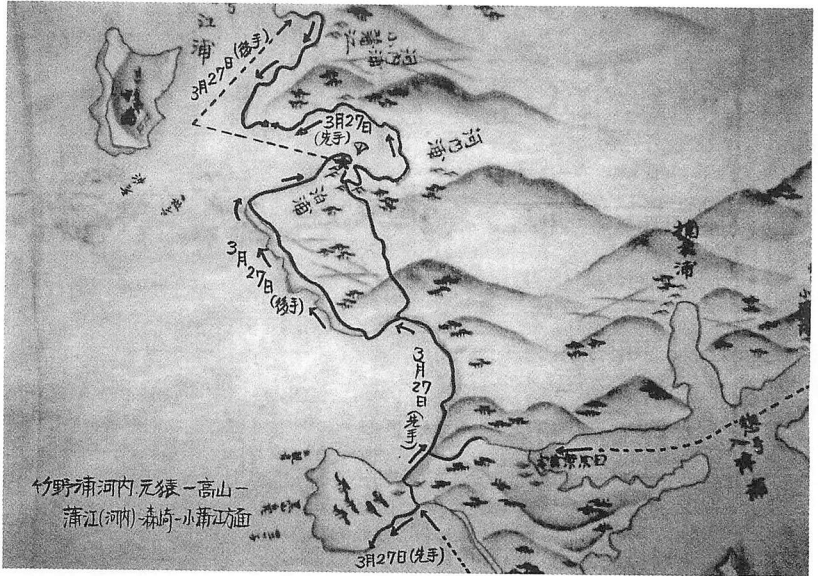
同廿六日 朝晴天 西北風 同所逗留、先後手六ツ

(午前五時半)後入津畑野浦出立

後手 青木・築田・箱田・長蔵

米水津浦、入津浦界岸崎より初め、畑野浦枝小浦迄測る。一里二十五丁廿四間一尺(約六、六九八m)



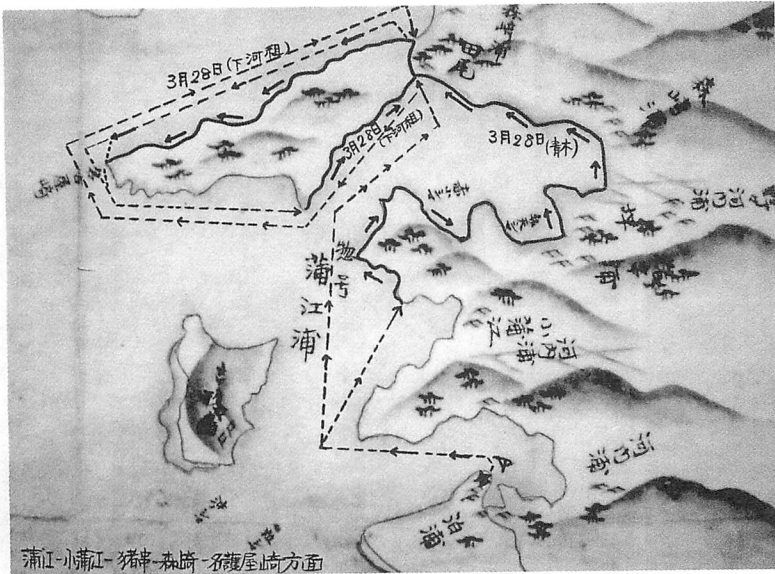


竹野浦河内 元猿—高山—蒲江（河内）—森崎—小蒲江方面

入津竹野浦河内 地 黒山砂浜(同所字大坂濱)より初め  
 黒山岬測量の所、波浪荒れ船測相成兼、一十二丁二十四間  
 三尺(約一、二二六m)で同字元猿、網屋十軒余りへ廻り、  
 ⑧印より⑨印迄黒山を横切。三丁三十五間四尺(約三九  
 二m)又⑧印より⑩印、後手横切残印迄測る。四丁四十  
 間(約五〇九m)夫より蒲江本郷泊浦字高山④印より横  
 切。一十二丁二十四間(約一、三五二m)後手と合測。両  
 手共一同に泊浦本陣にて中食。又手分先手にて同所人家  
 前⑪印より初め、河内浦字下松浜迄測る。三十五丁十三  
 間四尺(約三、八四三m)後手と合測。

後手 坂部・築田・上田・箱田・平助

入津竹野浦河内元猿越を横切。昨廿六日横切り残二丁四  
 十六間(約三〇二m)⑫印を残し、蒲江本郷泊浦字高山、  
 作番家三軒あり、この浜名貝おほし。⑬印を残す。此の日  
 風波、海岸測量難相成、海際の山上を測量。泊浦字蒲根、  
 夫より蒲江本郷泊浦、⑭印迄測る。⑮印より測所より一  
 里廿二丁十七間五尺(約六、三六〇m)蒲江泊浦測所より  
 四丁町二十三間三尺(約四七九m)×一里廿六丁四十一間  
 二尺(約六、八三九m)。⑯印より横切。六丁三十四間(約  
 七二六m)先後合一十八丁五十八間(約二、〇六九m)横



浦江一小浦江-猪串-森崎-名護屋崎方面

切。先手と合測。夫より浦江河内浦小浦江字三貫目網代鼻より初め、逆測し同浦字下松浜にて先手へ会測。二十六丁五十七間五尺(約二、九四一m)共に乗船、七ツ(午後四時半)に浦江本郷泊浦に着。

止宿 大庄屋御手洗嘉蔵 浦江浦都合九浦なり。舟掛上湊なり、本郷泊浦、河内浦、猪串浦、坪、又、浦村なし野々河内村、森崎浦枝に越浦あり、丸市尾浦枝に浦迫あり、葛原浦、波当津浦、九浦なり。

此の日 当村医師 疋田柳伯出る

日州飢肥候より国産御贈物

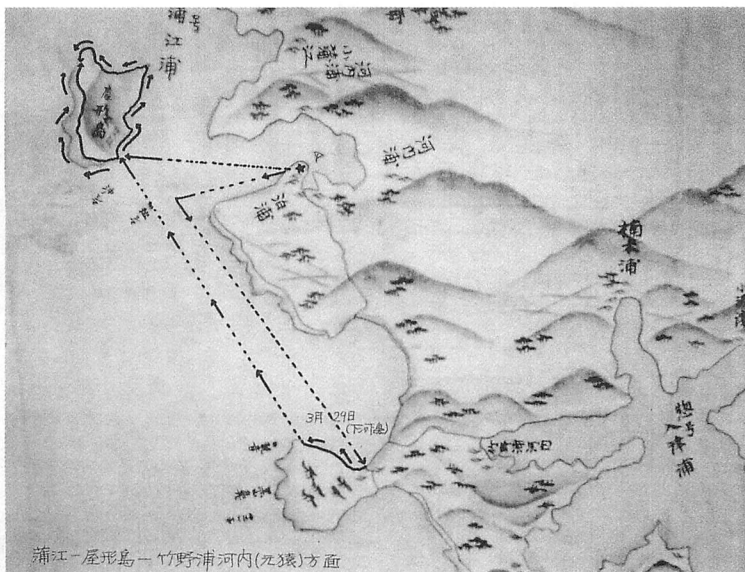
我らに鯉節百本、坂部同七十五本、下河邊・青木に同一箱宛、同弟子並びに長持宰領へ同五十本宛、侍竿取同三十本、小者五人へ同二十本宛下し置かされ納受

この夜曇天 不測

同廿八日 朝晴天 北風波高 同所逗留、六ツ(午前五時半)後 両手共出立乗船

青木・上田・箱田・長蔵

昨日先手測留、字三貫目網代鼻より初め、浦江、猪串浦字内ノ浦、坪浦地先、野々河内浦、海辺なし故に村とも云う。



蒲江-屋形島-竹野浦河内(元猿)方面

森崎浦字越峠(こえた) 字弥七浜にて手分けと合測。二里三丁一十八間一尺五寸(約、八、二三三m) □ト二丁二十六間(約一五四m) 汎測

下河邊・永井・篠田・平助

森崎浦内越田尾浦、**越**印より初め、丸市尾浦 ○印を横切、四丁〇四間(約四四四m) ○より逆測。同浦字名古屋崎ノ鼻迄測る。三十一丁四十二間五尺(約三、四五九m) 又、森崎浦字鵜糞鼻より初め、同字弥七浜にて手分け合測。一十四丁五十五間一尺(約一、六二七m) 両手共八ツ〔二時半〕後に帰宿。

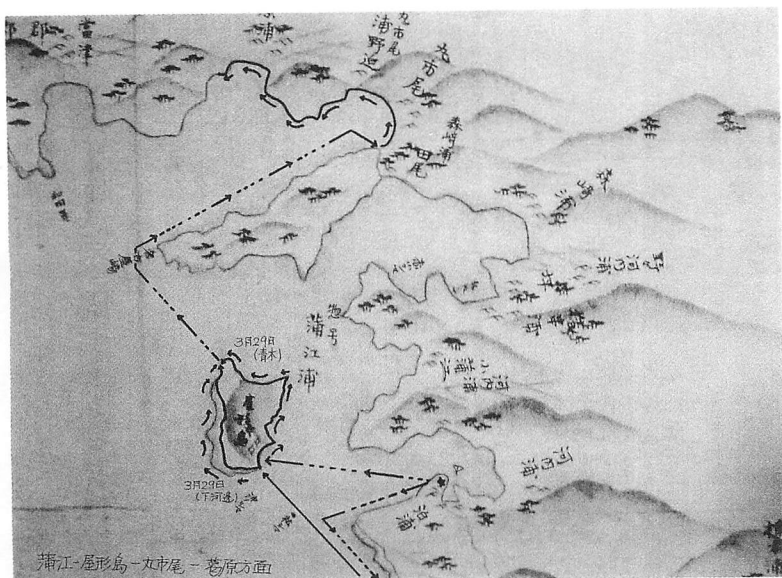
此の夜 晴天 測量〔天体〕

同廿九日 朝晴天 風あり浪高し 六ツ〔午前五時半〕

頃 両手共出立、乗船

下河邊・永井・箱田・長蔵

入津竹野浦河内字元猿**猿**印より黒山岬に向い逆測。一十二丁〇九間(約一、三三五m) にて波荒れ岬を残す。二十七日測量と合わせ二十三丁二十三間三尺(約二五五一)で岬見切る。夫より蒲江本郷泊浦の枝屋形崎を測る。同前浜より手分け西山を越えて赤波石あかばえにて手分けと合測



蒲江一屋形島一丸市尾一葛原方面

二十丁二十七間 (約二、五六〇m)

青木・築田・上田・平助

屋形嶋を手分けにて測る。前浜より左山迄赤波石にて手分と合測二十三丁二十八間。両手合一里〇七丁五十五間 (約四、七九〇m) 夫より蒲江丸市尾浦字畑中より初め、即昨日越田尾浦横切の越より測る。丸市尾浦の内浦之迫人家十二軒、葛原浦を歴て字具ヶ谷迄測る。一里三丁五十間 (約四、三四五m) 両手共九ツ (十二時) 後より八ツ (午後二時半) 頃に帰宿。

この日

・日州佐土原家士長友新左衛門・付回大庄屋長友六兵衛・同国延岡家士堤寛治郎・駒木根晟吾・町方用達今村新左衛門来る

この夜晴曇 測量 (天体)

四月朔日 朝大曇 風波高 同所逗留見合、両手共

六ツ (午前五時半) 後出立

我ら蒲江浦、葛原浦字貝ヶ谷より始め、蒲江波当津浦を歴て同浦字和田鼻迄測る。一里〇七丁二間 (約四、六九四m) 夫より蒲江森崎浦字鶴糞岬より初め、名古屋崎少し出前





一日の測量距離 ※印 離島

三月二日 蒲戸浦ノウガ内 除く

三日 蒲戸浦ノウガ内ノ福泊浦唐人波石

五、五六八 m

津井浦ノ福泊浦唐人波石

五、八三〇 m

四日 津井浦ノ古江浦風無浅井瀬井崎

六、一一八 m

彦島一周

※二、三七四 m

大入島白浜ノ高松浦竜ヶ鼻※(七、一九五 m)

五日 大入島白浜ノ石間浦

※(六、〇三一 m)

白浜久保浦經由ノ石間浦 ※(八、四九七 m)

六日 雨天休み → 大入島一周 ※二、七三三 m

七日 古江浦風無浅井瀬井崎ノ内野浦外間越

三、六〇九 m

海崎村中河原ノ内野浦外間越

八日 塩屋村中村榊形ノ海崎村百枝

五、九一五 m

海崎村中河原ノ海崎村百枝

三、八五七 m

九日 塩屋村持女島村一周

※五、八七〇 m

塩屋村持長嶋一周

※五、〇四〇 m

塩屋村持中の方島一周

※三、四五八 m

一〇日 休み

一日 塩屋村大江滝長波石ノ堅田村城村河原

八、五四八 m

久部村池田ノ堅田村城村河原

三、九六二 m

城村持鷺嶋一周

※一、二四四 m

城村津志河内村入会島屋嶋一周

※一、二六六 m

二日 大江灘村長波石ノ地松浦中河原

八、一五〇 m

沖松浦大崎ノ地松浦中河原

四、〇七〇 m

八嶋一周

※一、九三六 m

三日 沖松浦大崎ノ地松浦二俣野崎

二、六七四 m

鮪浦戸切ノ日野浦西ノ浦

三、三六九 m

四日 地松浦野崎ノ日野浦西ノ浦

四、六九六 m

鮪浦印ノ羽出浦西ノ浦

四、八五二 m

五日 羽出浦西野浦ノ中越浦宇土崎

七、四九一 m

中越浦宇土崎ノ梶寄浦居浦

五、五〇六 m

六日 大雨休み

七日 大風大波休み

八日 大島一周

※八、五〇九 m

小間嶋一周

※一、〇一三 m

高手嶋一周

※八六三 m

	梶寄浦〜鶴崎	一、九六一 m	二七日	河内浦小蒲江三貫目網代鼻	二、九四一 m
一九日	米水津浦小浦〜珍崎(波石)	一、六六七 m		〜下松浜	
	米水津浦小浦〜浦代浦黒鼻	五、二三四 m	二八日	河内浦小蒲江三貫目網代鼻	
二〇日	米水津村黒鼻〜岸メキ鼻	七、七九〇 m		〜森崎浦弥七浜	八、二三三 m
	米水津村珍崎(波石)〜鰺ヶ浦	五、五九二 m		森崎浦越田尾〜名護屋鼻	三、四五九 m
二二日	米水津村鶴岬〜浦白浦元ノ鼻	五、四六三 m		森崎鵜糞鼻〜弥七鼻	一、六二七 m
	浦代浦鰺ヶ浦〜浦白浦元ノ鼻	三、九六六 m	二九日	竹野浦河内元猿〜黒崎岬見切	一、三三五 m
	横嶋一周	※二、二三五 m		泊浦持 屋形嶋一周	※四、七九〇 m
二二日	西野浦元竜王鼻〜居立浦	七、〇九三 m		丸市尾村畑中〜葛原浦貝ヶ谷	四、三四五 m
	畑野浦小浦〜下り松鼻	七、五七二 m	三〇日	休み	
二三日	雨天休み		四月一日	貝ヶ谷〜波当津浦和田鼻	四、六九四 m
二四日	雨天休み			森崎浦鵜糞鼻〜名護屋崎	一、二九六 m
二五日	下り松鼻〜竹野浦河内	六、二〇三 m		深島一周	※五、一八九 m
	西野浦居立浦〜竹野浦河内	四、五四一 m	二日	日向国(宮崎県)へ越し測量	
二六日	岸メキ崎〜畑野浦小浦	六、六九八 m		上浦・城下・中浦・下浦	
	洲ノ本竜王鼻〜竹野浦河内			海岸線延長	約二〇〇、〇〇〇 m
	黒山前砂浜(大坂浜)	七、八九六 m		※離島延長	約 六五、五〇〇 m
二七日	黒山前砂浜〜元猿〜泊浦	六、八三八 m		遠測、小島若干あり	一、二〇〇 m
	泊浦〜河内浦下松浜	三、八四三 m		惣延長	約二六六、七〇〇 m
	黒山前砂浜〜黒山岬見切	一、二二六 m			

同日夕時晴天先子より後津井浦如之波子表示書本上南

多向平巾 津井浦より沖 改海井浦 松浜を 晴于浦 右に浦子

風と浦波井 改井傍と例 上程百十口 先子取部下河急水井 築田

去程 大入湾例 名保浦字 白浪 ① 即ち日向泊浦字去浦 二五浦

高松浦 唐船碇石 字童ヶ島之例 白浪白印古松浦上石と一重三古丁字三石 高松浦上石と童ヶ島ヶ坪と九丁字三石

合 白浪白印 童ヶ島ヶ坪と一重三古丁字三石 重廿九下字三石と尺 先子 九子塔 海子 八子 大入湾高松浦 去

如津浦字 浦家 大体看 昭若 百姓 千島 此夜晴王例也 大入湾浦 去程

既田浦と先子 森塔浦 吉島 日向浦 去程の 片神浦 塔露之 保浦 吉島 塔露浦

波 塔露 若納代浦 去程 高松浦 八子 浦 白字 比方 海傍村 去程 江 塔露 塔露 塔露

村 去程 塔露 去程 先子 塔露 塔露 塔露 塔露 塔露 塔露 塔露 塔露 塔露 塔露

後子待生浦坊  
去程 塔露 塔露  
三丁字三石

同五日初暗天先降子夜改土入信高招浦

久保浦字白渡 ①即久保神戶神浦 枝竹谷浦 係 陸田浦字廣綱代余

若綱代浦上歷石間浦 係 石間谷 係 二里于九丁 若綱代浦 入全島

片白修 遠例 陸田浦 係 粟比良修 係 若綱代浦 係 唐修 係 陸田代下

石間浦 係 唐土修 係 陸田 係 下河邊青木 係 陸田 係 高招浦

字之渡 係 神戶神浦 係 久保浦 係 守修浦 係 竹修 係 陸田

石之石間浦 係 石間谷 係 石間谷 係 二里 係 二里 係 二里 係 二里

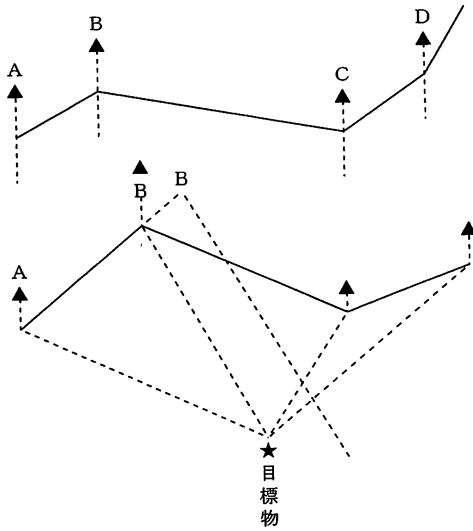
女子天 係 陸田 係 陸田 係 陸田 係 陸田 係 陸田 係 陸田 係 陸田

後者 係 別宿 係 西姓 係 三美 係 戊日午 係 陸田 係 曇天 係 小雨

《資料》伊能測量隊の測量方法

道線法  
どうせんほう

交会法  
こうかいほう



伊能忠敬の測量は、基本的には道線法と交会法の二つの方法を組み合わせて行われました。

道線法は、測点間の距離と方位を順々に測っていく方法です。まずABC D・・・と測点を定め、梵天と呼ばれ

る目印を立て、その距離と方位を直線的に順々に測っていく方法である。測点Aから測点Bへの方位を測るとともに、測点Bから測点Aへの方位も測り、できるだけ誤りがないようにしている。

交会法は、いくつかの測点から山や建造物などの共通する目標物を見通し、その方位を測っておく方法である。測点Aから、また、測点BやCから、共通する目標物への方位を測っておきます。それを地図上で、それぞれの地点から方位線を引き目標物の位置を決定する作図法である。もしBのように距離を測り間違えていれば、方位線が一点で交わらず、測量の間違いに気づくことができる。

【本号での読み替え】

二頁 岸崎 || キシメキ崎

三頁 竜王鼻 || 龍王鼻

六頁 名古屋崎 || 名護屋崎 鵜糞鼻 || 鵜尿鼻

屋形崎 || 屋形嶋

八頁 鵜糞鼻 || 鵜尿鼻